

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

平成30年1月24日

地区の名称	緑の保全及び横浜動物の森公園整備事業				
交付の期間	平成25年度～平成26年度	計画の期間	平成22年度～平成26年度（5年間）	交付対象	横浜市
計画の目標					

本市では、緑の減少に歯止めをかけ、緑豊かな都市環境を保全・創造していくため、「樹林地を守る」「農地を守る」「緑をつくる」を3つの施策の柱とした「横浜みどりアップ計画」の推進に取り組んでいます。また、本市においては、緑の多くが民有地であることから、民有地の緑に対する施策を大幅に拡充し、そのための安定的な財源として平成21年度から「横浜みどり税」を導入し、緑地保全地区指定拡

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 緑地の指定面積の拡充（H22→ -、H26→500ha） 歩いていける身近なみどりのネットワーク率（H22→75.9%、H26→83.9%） 				
----------------	---	--	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H22当初)	中間目標値	最終目標値 (H26末)							
① 本市全域における緑地の拡充指定面積を調査する。	0ha		500ha							
② 歩いていける身近なみどりのネットワーク率を測定する。 = { 供用箇所数 × [平均供用面積 / 公園・緑地標準面積] } / (住区数 × 1 住区の公園・緑地標準箇所数) }	75.9%		83.9%							
全体事業費	合計 (A+B+C)	7,609	A	7,609	B	-	C	444	効果促進事業費の割合 (A(提案分)+C) / (A+B+C)	5.8%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者を入れた評価を実施しました。	平成29年度
	公表の方法
	横浜市ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A1 基盤事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
6-A-1	公園	一般	横浜市	直接	横浜市	都市公園事業（横浜動物の森公園）	草原エリア、わくわく広場等整備工事	横浜市						881	
6-A-2	公園	一般	横浜市	直接	横浜市	横浜市緑地保全等事業	土地の買入れ等 (23.03ha、36地区)	横浜市						6,728	
合計													7,609		
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
合計															
番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考	

C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
6-C-1	施設整備	一般	横浜市	直接	直接	動物舎整備事業（横浜動物の森公園）	動物舎2棟新築工事	横浜市						444	
合計													444		
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考
6-C-1	新設公園及び老朽化が著しい動物の飼育・展示施設について、整備等を行い公園利用を促進する。														

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		平成21年度から「横浜みどり税」を活用し、指定地での買取希望に対して確実に対応してきたことが、土地所有者の安心感につながり、緑地保全制度の指定が大幅に進みました。そのため樹林地の減少傾向が鈍化し、緑の総量維持に一定の成果が見られました。														
II 定量的指標の達成状況	指標①（本市全域における緑地の拡充指定面積を調査する。）	最終目標値	500ha	目標値と実績値に差が出た要因	1年間に100ha以上の保全指定が進んでおり、最終目標よりも多くの緑地の保全がされた。											
		最終実績値	541.1ha													
	指標②（歩いていける身近なみどりのネットワーク率を測定する。）	最終目標値	83.9%	目標値と実績値に差が出た要因		想定より多数の緑地の保全が進んだため、身近なみどりのネットワーク率は目標を上回った。										
		最終実績値	86.3%													
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）		<ul style="list-style-type: none"> 緑地の保全を推進していくとともに、「横浜市森づくりガイドライン」や「保全管理計画」を活用した維持管理により良好な森づくりを進めました。また、イベントなどをきっかけとして森に関わる市民の裾野が広がるとともに、森づくりの研修などを通して森を育む人が育っています。 緑地保全制度による指定が進んだことで、貯留・涵養機能や生物多様性、防災・減災など、樹林地が持つ多様な機能が高まった。 														

3. 学識経験者の意見

・引き続き、緑の保全事業を進めてください。

4. 特記事項（今後の方針等）

・引き続き緑地の保全を進めていくとともに、市民協働による「森づくり」を続けていきます。
 ・本計画については平成22年度から24年度までの「緑の保全及び公園緑地整備事業」にある横浜動物の森公園事業、横浜市緑地保全等事業、効果促進事業を抜き出した計画。「緑の保全及び公園緑地整備事業」にある他の事業については「横浜市における安全・安心のまちづくり（防災・安全）」計画へ移行・統合。

計画の名称	緑の保全及び動物の森公園整備事業		
計画の期間	平成22年度 ～ 平成26年度 (5年間)	交付対象	横浜市

